

1. 取り組むきっかけ等

A I の台頭など、予測不能な社会で生きる力が求められる中、求められる資質・能力と、教員が身に付けさせたい能力とのすりあわせが必要だと感じていた。そこで、校内で中長期的な生徒育成目標を再設定しようという機運が起こり、議論の場が持たれた。その結果、地域の豊富な教育資源を積極的に活用しながら目標達成に向けてアプローチする「つべつ学」を実践することとした。

2. 取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

地域をフィールドとすることで生徒は自分の町への興味関心を深め、郷土を愛する気持ちが増した。また、生徒がテーマ学習で学んだ分野の専門家に直接学ぶことで、社会情勢を肌で感じ、物事の本質や奥深さに触れることができた。さらに、熱意ある地域の大人との出会いによって、物事の考え方や価値観を広げるとともに、職業観、ひいては人生観まで養ったように感じている。

3. 取組を進める上で、苦勞したこと

巡検（実習）が多いので、講師との日程調整やバスの借用、文書発送、他教員との連絡調整といった渉外業務が大変であった。また、巡検後のまとめ活動を行う際に講師が不在のため、専門的な内容に関する教師からのアドバイスは不十分で、生徒の学びを深めきれない点があり、次年度に向けて改善を検討している。授業内容において、十分な時間が確保できず、課題設定の視点や論理立てた文章構成力がなかなか身に付かずジレンマもあったが、学年末の段階では成長した姿を見ることができた。

4. 取組を進める上で、日頃から心がけていること

何のために「つべつ学」を学んでいるのか（目的）を定期的に生徒に伝え確認することを心がけていた。また、ルーブリック評価を取り入れたことで、生徒が自分自身で振り返ることにも効果的であった。

5. 今後の取組について

実体験が学びの質を高めると改めて感じている。また、熱意ある大人との出会いが生徒の学びに対する意欲を大いに刺激すると感じた。地域との連携をさらに深め、教育資源の探究と効果的な授業展開作りを進めていきたい。